

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100176		
法人名	野原電研株式会社		
事業所名	グループホーム ハッピー桜 (染井)		
所在地	岐阜県大垣市外淵2丁目81番地		
自己評価作成日	平成30年10月28日	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/21/indeex.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&igiyosyoCd=2192100176-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成30年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方とは気軽にお声かけていただいたり、声をかけさせていただいています。一日の様子はメリハリのある生活を送っていただけるように公文の学習療法(有料・個人負担)を取り入れたり、パズルや簡単な漢字、計算問題、ぬり絵等を提供しています。また、生活感のことして洗濯物を干したり、畳んだり、お盆を拭いていただいたり、お手伝いもさせていただいています。その他二階には広いデッキがあり、草花や野菜を植えてそれぞれで季節感をあじわっていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは近隣に連携しているクリニックや同法人施設が立地している、のどかな田園地帯に位置している。同法人連携施設とは、会議を通して交流があり、防災における協力体制もできている。また、ホームがある施設にはデイサービスが併設されており、利用者間の交流があったり、デイの機械浴を活用してもらおう等、日常的な連携ができています。ホームの玄関を入ると各所に花が飾られ、また利用者の作品や写真が掲示されており、明るく温かみのある雰囲気を感じさせている。リビングには、ゆったり横になれる広いソファが置かれ、四方が展望できる広いデッキがあり、プランターに野菜等が植えられたり、洗濯の干し物がある等、生き生きとした生活感や季節感が感じられる。ホームでは重度の認知症の方も受け入れており、利用者家族への支援も行っている。また、各種研修参加や資格取得について配慮する等職員教育に力を入れている。事業者連絡会等の関係機関が集まる各種会議にも参加する等し、地域の関係機関との連携を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議では、認知症の利用者様を念頭に虐待や身体拘束等の研修を実施している。また毎日の申し送り時には出勤者全員で理念を唱和しています。	理念を実践に活かすため、毎年、具体的なケアの目標をわかりやすい言葉で掲げている。仕事の開始時やミーティングの前等に唱和すると共に、ケースカンファレンスや各種会議の中でも機会を捉えて、今年目標が理念に即しているか検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生の職場体験は積極的に受け入れしています。また地元の保育園とは交流があり、毎年の運動会に参加させていただいています。	地域に開かれたホームとして、地域の住民の方々から認知症の相談を受け、困難なケースに対応する等、地域の相談機関としての役割を果たしている。近隣の方々が気軽に立ち寄り、果物や野菜の差し入れがあったり、また地域の行事に参加する等地域との交流が日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では同町内の自治会長さんや、民生委員さんに参加していただき、パワーポイントを使用し認知症のミニ学習会をしている。分かりやすいと好評を得ています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では毎回日常生活や行事での様子をスライドにて報告させていただいています。またパワーポイントを使用して認知症のミニ学習会や最後に意見交換会等実施、貴重な意見を参考にしサービス向上に努めています。	運営推進会議ではホームの運営状況や生活の様子を報告すると共に、ミニ学習会も開いている。席上で得られた意見は、ホームの運営やサービスの質の向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの介護情報はメール又は口頭にて事業所全体で共有している。また定期的に開催される事業者連絡会や医師会開催の他職種連携事業に出席し、施設の現状や悩み、困難事例等を意見交換している。	管理者は積極的に地域の関係機関が集まる各種会議に参加し、行政を始め、その他関係機関との連携を深めている。困難なケースの受け入れ等個別の事例を通じて、市や地域包括支援センターとの協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が外部研修の虐待防止、身体拘束研修に参加し、その資料をもとに会議にて社内研修を実施しています。職員には安易な身体拘束を行わないように指導しています。また施設内で身体拘束委員会を3カ月に1回開催しています。	身体拘束をしないケアについての外部研修に参加すると共に、内部研修を実施し、職員の学びを深めている。また具体的な事例(例えばスピーチロック等)についても検討し、利用者の人格を尊重したケアにあたるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何か？を知ることが大切。暴力だけではなく言葉での暴言や何もしない事も虐待と繋がる事がある。身体拘束と同様無意識に虐待していないか？職員同士が気をつけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当者する方はみえないが、今後家庭環境の多様化に伴いないケースが発生すると思われます。研修があれば参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご相談があり、契約に至るまでに利用者様やご家族の不安や疑問にお答えしご理解をいただいています。契約時にも再度、運営規定、重要事項説明書等にて、説明させていただきその上にて契約していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族の方々のお声を聞き、投函する仕組みがあります。毎月の施設長会議で事業所全体の声を把握しています。特に苦情等は貴重な意見として全職員で情報共有しています。	職員が利用者や家族と面会した時に得た意見や要望を「お客様の声情報」として書き留め、職員会や法人会議で報告し、運営に活かしている。「苦情」は宝とする姿勢を持ち、話やすい関係や環境作りに力を入れており、利用者、家族との信頼関係構築に向けて積極的に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時の職員の意見や考えを記録し上席者に報告しています。またお客様声情報は職員の声も反映させるツールとして活用しています。食事は職員の本音を聞く機械として年1~2回開催しています。	管理者は職員が気軽に話ができる風通しの良い関係作りに取り組んでおり、会議等の機会を捉えて、職員の意見を汲み上げ、ホームの運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	報奨金制度があり、資格を取得した時は金一封がでます。自己評価を実施し、意欲ややりがいを把握し、研修の意欲がある職員は外部研修(費用:会社負担)に参加し、介護スキルアップを図ることことが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修派遣の年間計画は、経験年数や実績を考慮して派遣しています。また職員自ら希望する研修があればそれに沿うようにしています。研修終了後はその職員が講師となり施設内研修を開催しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大垣市サービス事業者連絡会の会員となっており、定期的な会議や研修に参加しています。また地域密着型施設の交流会には毎回出席し各事業者さんと積極的に情報交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族さんや主治医の情報を参考にして、利用者様が安心してお話が出来る環境を整え、傾聴を基本としてお話を伺っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の生活歴や認知症発症後ご家族のご苦勞などお聞きし、今後の支援方法をご家族の要望も取り入れながら作成しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用し、ご本人やご家族からお聞きした言葉を書き出し真意を見出しています。ご家族の困り事があればそのニーズにあったサービスを提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が残存能力を発揮していただき、洗濯物を干したり畳んだり・・・職員と共に会話をしながら出来る事をお手伝いしていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者様のご様子を報告させていただいたり、利用者様とご家族がゆっくり過ごせるように環境を整えています。ご家族からの申し出があれば外泊や外出もできます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には楽しく過ごせるようその場の雰囲気や居心地を大切にしています。それが居室であったり他の利用者様と一緒にフロアであったり・・・臨機応変に対応させていただいています。	ホームの利用者は地元の人が多く、親族、地元の友人・知人等の来訪もある。来訪時には面会の時間を気持ち良く過ごしてもらえるよう配慮し、馴染みの人との関係継続の支援に努めている。また、併設デイサービスで交流する友人・知人との関係も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が穏やかに過ごしていただけるように、席の工夫を行っています。個々の性格や認知症状の違いを把握し、寂しくならないように対応しています。時には職員が間に入り楽しく交流していただけるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も何らかのご相談があれば対応しています。また施設外でお見かけした時も挨拶をしたりご相談には応じています。入院、転所の場合は電話や介護サマリー等で情報を交換しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスや毎日の申し送り時、気になる利用者様の声を聞き個別対応させていただけます。また不安そうな顔をして見えたり、お元気がないときは外のデッキに出てお話を聞いたり、気分転換をしていただけてます。	利用者を尊重し、寄り添う姿勢でケアにあたり、日常的なケアの場面では利用者の声に耳を傾けている。入浴時や夜間帯等にゆっくり話を聞いたり、コミュニケーションが困難な場合でも利用者の表情・しぐさ等を観察し、行動の背景を探り、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前にご本人やご家族に今迄の家族状況や生活歴、好きな事、嫌いな事などアセスメントしています。またご自宅にある馴染みのある物を持ってきていただいたり、家庭の延長のような環境を整えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を介護記録や申し送りに記録し、利用者様の生活状況を把握しています。またレクなどを通して意外な一面を見出し、職員全員が情報共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にご家族の利用者の様子を話したり、ご家族からも支援方法を相談しています。月1回の全体カンファレンス、ユニット別カンファレンスで職員全員が支援方法を話し合い情報共有しています。	利用者のアセスメントを実施し、家族の面会時の意見を踏まえて、カンファレンスで話し合い、ケアプランを作成し、職員全員で共有している。モニタリングを実施し、定期的な見直しに加えて、利用者に変化があれば、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の様子を介護記録や、申し送りノートに記入し利用者様の状況を職員全員が把握し、日々支援を実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活からご本人やご家族から得た情報を元に介護計画の変更等、臨機応変に対応させていただけてます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大垣市の交流会や広報などで新しい資源を見出し、外出や外食等楽しんで頂けるように支援しています。大垣祭りや喫茶店は楽しみにしてみえます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医はあるが、強制はしておらず、入所前の馴染みのかかりつけ医でもかまわない。受診される際には日々の様子やバイタルなどの情報を提供しています。大垣市には医師と事業所との連携があるため大変助かっています。	かかりつけ医の選択は自由である。協力医は近隣にあるので、密な連携ができており、利用者の体調変化にも速やかな対応ができ、安心である。また、馴染みのかかりつけ医の受診や他科受診の場合でも利用者の状況について情報提供を行う等、連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には2名の看護職員と在籍しています。(パート)利用者様の体調が悪い時はその都度対応しています。また協力医の看護師も24時間のオンコール体制をとっており、指示が受けられるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、指定の介護状況報告書があり、適切な治療が受けられるよう協力しています。また急変時に救急車を要請した時には必ず職員が同乗し病院の先生に状況を伝える体制になっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末医療についての説明、確認を行っています。看取りについても条件があえば看取りの体制を整えています。看取りの実績もあり、ご家族からの問い合わせもあります。	入居時に看取りケアの方針について説明している。利用者が重度化し、ターミナル期に入った場合には、医師からの説明があり、看取りケアを希望する場合には、医師、看護師等と連携の下、チームで看取りケアを行っている。運営推進会議の際に、看取りケアについての勉強会を行なったが、参加者からの関心が高く、今後のニーズの増加が予想されたとのことである。	自然な形で尊厳死が望まれる時代を反映してグループホームでも看取りのニーズの更なる増加が予想される。今後とも看取りケアについての学びを深め、ホームとしての看取りケアの更なる体制強化に向けた取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変はいつ起きるか分からないので、日頃から緊急時対応マニュアルを掲示しています。また消防署から職員さんに来ていただき、全職員対象に救命講習を受講しました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議において災害時の地域の協力体制の確認をさせていただいています。水害や火災において避難経路の確認を定期的に行い有事に備えています。	水害に関する防災マニュアルを見直し、備えている。また、年2回防災訓練を行っているが、夜間を想定し、緊急連絡先に従い、連絡を行う等の訓練を行った。非常食や飲料水の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対する声掛けにはいつも気をつけています。無意識の不適切な声掛けには職員がお互いに注意をしています。特に排泄や入浴時にはプライバシーに配慮しています。	利用者の尊厳を損なわないよう言葉かけに配慮し、また日常的なケアの場面(例えば、排せつや入浴の場面等)でのプライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうでしょうか?」「どちらにしますか?」というように利用者様本人が選択できるように声掛けしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のご意向を聞きながら支援しています。「やりたくない」「行かない」時は無理強いはしていません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様のご意向を聞きながら支援しています。洋服もいつも同じにならないように気をつけています。理美容に関しては本人に確認してから髪型、長さを美容師さんにお伝えしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外注による献立の提供となっているためメニューが決まっているため変える事ができませんが、業者さんの満足度調査があるので、希望は言えます。年に数回おやつレクがあり、利用者様と職員で楽しく食事作りし、好評を得ています。	カレーライスやおはぎ等を食べるだけでなく、「おやつレク」の実践を通して、利用者も職員と一緒に作る等して、食事が楽しみになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量はその都度記録しています。利用者様の状態により食事形態を常食、ソフト食、ミキサー等で提供しています。また摂取量が極端に少ない方はエンシュアで栄養補充しています。水補も必要なことを理解してもらい書いていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には声掛けにて口腔ケアをしていただけています。自己にて出来ない利用者様は介助しています。また希望者の方には訪問歯科の口腔ケアの指導をうけてみえます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用、排泄パターンを確認、自己にてトイレに行かれない利用者様は声掛にてトイレ誘導しています。また立位が難しい方には二人介助にてトイレ誘導誘導しトイレで排泄していただています。	基本的に尿意や便意がある方はトイレ誘導を行っている。訴えが難しい方や重度の方であっても、排尿パターンを把握し、トイレ誘導をすることでトイレでの排泄が可能になるよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を確認。便秘時には下剤や浣腸にて排便コントロールしています。また個々には腹部マッサージや水分接種や体を動かすことを促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	楽しみにされている方、苦手な方、お湯も熱い、ぬるいなど好みに応じて入浴していただています。また身体状況にて一般浴や機械浴と分けて安全に入浴していただています。	週2回入浴が基本であるが、夏場等状況に応じて、週3回入浴を行う対応をしている。職員の介助負担が増加しても、自身で浴槽に入ることが可能であれば、個浴で対応している。難しい場合は1階のデイサービスにある機械浴を利用して入浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のそれぞれの生活に合わせ就寝の声かけをしています。眠れなくフロアに出て見えた時はお茶や、軽いお菓子を出しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお薬情報は職員がいつでも見られる所に置いてあり、薬の重要性も周知しています。服薬時は日付や名前を声に出して確認し服用していただています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	メリハリのある生活を送る為、漢字や計算プリント、パズルなどを提供しています。また洗濯物をふおしたり、畳んだり利用様の出来る事を手伝っていただています。また天気の良い日はデッキに出て外の空気にふれ気分転換しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レク当番があり、毎月外出やレクの行事を計画し実行しています。外出時は参加していただけるご家族に声掛し、毎回3組ほどのご家族が参加され、楽しい時間を過ごしていただています。またご家族からの依頼があれば外出はいつでも出来ます。	毎日、外出支援を実施し、季節感を感じてもらえるよう、例えば、初詣に出かけたり、花(梅、桜、バラ、菖蒲)、紅葉を見に出かけている。外出の際に喫茶店に立ち寄る事が利用者の楽しみのひとつにもなっている。またホーム周辺の散策も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は事務所で預かっています。ただご本人の希望でお金を持っていたい方にはご家族と相談し1000円～2000円くらいを財布に入れてもってみえる方もみえます。他預かっているお金で館内の自販機を利用される方もみえます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って見え、ご家族自由に連絡を取り合ってみえる方もいらっしゃいます。また利用者様から家族に電話がしたいと依頼があったら、職員がかわって電話することもあります。手紙の依頼は現在はないが対応できます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全てバリアフリーで対応しています。室内はいつも電気がついており、明るいです。手作りの手芸品も多数飾ってあり家庭的な一面もあります。外のデッキにはプランターに花や野菜が植えてあり、季節感を感じていただいています。	全体的にフロア内は掃除が行き、きれいで清潔が保たれている。照明や床材の色も明るく、壁面にも季節の飾りや行事写真が掲示されている。利用者の行動に合わせてソファを設置し、疲れた時には自然に休むことができるよう工夫している。大きなデッキがあり、プランターで花や野菜を育てている。また、利用者と一緒に洗濯物を干す等して、職員と利用者が1対1で関わることもできる場所として活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が隣席に座ったり、少し離れたところにソファを置いて1人になれるように配置しています。また席は利用者様の状況を見ながら変えることもあり、皆様が穏やかに過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に居室の配置はご本人やご家族様と相談して決めています。ご自宅で使用していた馴染みの物とか写真を持参していただき安らぎの場所になっています。	家具の持ち込みは自由であり、仏壇を持ち込んでいる方もいる。行事の時や家族が面会に来た時の写真を飾る等して、居室が落ち着き、安心できる場所になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の動線には歩行の障害にならないように物を置かないようにしています。またトイレやお風呂には分かるように表示しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100176		
法人名	野原電研株式会社		
事業所名	グループホーム ハッピー桜(八重)		
所在地	岐阜県大垣市外淵2丁目81番地		
自己評価作成日	平成30年10月28日	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/indeex.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&iigvosvoCd=2192100176-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成30年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方とは気軽にお声かけていただいたり、声をかけさせていただいてます。一日の様子はメリハリのある生活を送っていただけるように公文の学習療法(有料・個人負担)を取り入れたり、パズルや簡単な漢字、計算問題、ぬり絵等を提供しています。また、生活感のことして洗濯物を干したり、畳んだり、お盆を拭いていただいたり、お手伝いもさせていただいてます。その他二階には広いデッキがあり、草花や野菜を植えてそれぞれで季節感をあじわっていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議では、認知症の利用者様を念頭に虐待や身体拘束等の研修を実施している。また毎日の申し送り時には出勤者全員で理念を唱和しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生の職場体験は積極的に受け入れしています。また地元の保育園とは交流があり、毎年の運動会に参加させていただいています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では同町内の自治会長さんや、民生委員さんに参加していただき、パワーポイントを使用し認知症のミニ学習会をしている。分かりやすいと好評を得ています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では毎回日常生活や行事での様子をスライドにて報告させていただいています。またパワーポイントを使用して認知症のミニ学習会や最後に意見交換会等実施、貴重な意見を参考にしてサービス向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの介護情報はメール又は口頭にて事業所全体で共有している。また定期的開催される事業者連絡会や医師会開催の他職種連携事業に出席し、施設の現状や悩み、困難事例等を意見交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が外部研修の虐待防止、身体拘束研修に参加し、その資料をもとに会議にて社内研修を実施しています。職員には安易な身体拘束を行わないように指導しています。また施設内で身体拘束委員会を3カ月に1回開催しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何か？を知ることが大切。暴力だけではなく言葉での暴言や何もしない事も虐待と繋がる事がある。身体拘束と同様無意識に虐待していないか？職員同士が気をつけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当者する方はみえないが、今後家庭環境の多様化に伴わないケースが発生すると思われます。研修があれば参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご相談があり、契約に至るまでに利用者様やご家族の不安や疑問にお答えしご理解をいただいています。契約時にも再度、運営規定、重要事項説明書等にて、説明させていただきその上にて契約していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族の方々のお声を聞き、投函する仕組みがあります。毎月の施設長会議で事業所全体の声を把握しています。特に苦情等は貴重な意見として全職員で情報共有しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時の職員の意見や考えを記録し上席者に報告しています。またお客様声情報は職員の声も反映させるツールとして活用しています。食事は職員の本音を聞く機械として年1～2回開催しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	報奨金制度があり、資格を取得した時は金一封がでます。自己評価を実施し、意欲ややりがいを把握し、研修の意欲がある職員は外部研修(費用:会社負担)に参加し、介護スキルアップを図ることことが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修派遣の年間計画は、経験年数や実績を考慮して派遣しています。また職員自ら希望する研修があればそれに沿うようにしています。研修終了後はその職員が講師となり施設内研修を開催しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大垣市サービス事業者連絡会の会員となっており、定期的な会議や研修に参加しています。また地域密着型施設の交流会には毎回出席し各事業者さんと積極的に情報交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族さんや主治医の情報を参考にして、利用者様が安心してお話が出来る環境を整え、傾聴を基本としてお話を伺っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の生活歴や認知症発症後ご家族のご苦勞などお聞きし、今後の支援方法をご家族の要望も取り入れながら作成しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用し、ご本人やご家族からお聞きした言葉を書き出し真意を見出しています。ご家族の困り事があればそのニーズにあったサービスを提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が残存能力を発揮していただき、洗濯物を干したり畳んだり・・・職員と共に会話をしながら出来る事をお手伝いしていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者様のご様子を報告させていただいたり、利用者様とご家族がゆっくり過ごせるように環境を整えています。ご家族からの申し出があれば外泊や外出もできます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には楽しく過ごせるようその場の雰囲気や居心地を大切にしています。それが居室であったり他の利用者様と一緒にフロアであったり・・・臨機応変に対応させていただきます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が穏やかに過ごしていただけるように、席の工夫を行っています。個々の性格や認知症状の違いを把握し、寂しくならないように対応しています。時には職員が間に入り楽しく交流していただけるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も何らかのご相談があれば対応しています。また施設外でお見かけした時も挨拶をしたりご相談には応じています。入院、転所の場合は電話や介護サマリー等で情報を交換しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスや毎日の申し送り時、気になる利用者様の声を聞き個別対応させていただいています。また不安そうな顔をして見えたり、お元気がないときは外のデッキに出てお話を聞いたり、気分転換をさせていただいています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前にご本人やご家族に今迄の家族状況や生活歴、好きな事、嫌いな事などアセスメントしています。またご自宅にある馴染みのある物を持ってきていただいたり、家庭の延長のような環境を整えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を介護記録や申し送りに記録し、利用者様の生活状況を把握しています。またレクなどを通して意外な一面を見出し、職員全員が情報共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にご家族の利用者の様子を話したり、ご家族からも支援方法を相談しています。月1回の全体カンファレンス、ユニット別カンファレンスで職員全員が支援方法を話し合い情報共有しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の様子を介護記録や、申し送りノートに記入し利用者様の状況を職員全員が把握し、日々支援を実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活からご本人やご家族から得た情報を元に介護計画の変更等、臨機応変に対応させていただいています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大垣市の交流会や広報などで新しい資源を見出し、外出や外食等楽しんで頂けるように支援しています。大垣祭りや喫茶店は楽しみにしてみえます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係構築ながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医はあるが、強制はしておらず、入所前の馴染みのかかりつけ医でもかまわない。受診される際には日々の様子やバイタルなどの情報を提供しています。大垣市には医師と事業所との連携があるため大変助かっています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には2名の看護職員と在籍しています。(パート)利用者様の体調が悪い時はその都度対応しています。また協力医の看護師も24時間のオンコール体制をとっており、指示が受けられるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、指定の介護状況報告書があり、適切な治療が受けられるよう協力しています。また急変時に救急車を要請した時には必ず職員が同乗し病院の先生に状況を伝える体制になっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末医療についての説明、確認を行っています。看取りについても条件があれば看取りの体制を整えています。看取りの実績もあり、ご家族からの問い合わせもあります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変はいつ起きるか分からないので、日頃から緊急時対応マニュアルを掲示しています。また消防署から職員さんに来ていただき、全職員対象に救命講習を受講しました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議において災害時の地域の協力体制の確認をさせていただいています。水害や火災において避難経路の確認を定期的に行い有事に備えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対する声掛けにはいつも気をつけています 無意識の不適切の声掛けには職員がお互いに注意をしています。特に排泄や入浴時にはプライバシーに配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうでしょうか?」「どちらにしますか?」というように利用者様本人が選択できるように声掛けしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のご意向を聞きながら支援しています。「やりたくない」「行かない」時は無理強いはしていません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様のご意向を聞きながら支援しています。洋服もいつも同じにならないように気をつけています。理美容に関しては本人に確認してから髪型、長さを美容師さんにお伝えしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外注による献立の提供となっているためメニューが決まっているため変える事ができませんが、業者さんの満足度調査があるので、希望は言えています。年に数回おやつレクがあり、利用者様と職員で楽しく食事作りし、好評を得ています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量はその都度記録しています。利用者様の状態により食事形態を常食、ソフト食、ミキサー等で提供しています。また摂取量が極端に少ない方はエンシュアで栄養補充しています。水補も必要なことを理解してもらい摂っていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には声掛けにて口腔ケアをしていただいています。自己にて出来ない利用者様は介助しています。また希望者の方には訪問歯科の口腔ケアの指導をうけてみえます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用、排泄パターンを確認、自己にてトイレに行かれない利用者様は声掛にてトイレ誘導しています。また立位が難しい方には二人介助にてトイレ誘導誘導しトイレで排泄していただています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を確認。便秘時には下剤や浣腸にて排便コントロールしています。また個々には腹部マッサージや水分接種や体を動かすことを促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	楽しみにされている方、苦手な方、お湯も熱い、ぬるいなど好みに応じて入浴していただています。また身体状況にて一般浴や機械浴と分けて安全に入浴していただています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のそれぞれの生活に合わせ就寝の声かけをしています。眠れなくフロアーに出て見えた時はお茶や、軽いお菓子を出しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお薬情報は職員がいつでも見られる所に置いてあり、薬の重要性も周知しています。服薬時は日付や名前を声に出して確認し服用していただています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	メリハリのある生活を送る為、漢字や計算プリント、パズルなどを提供しています。また洗濯物をふおしたり、畳んだり利用様の出来る事を手伝っていただています。また天気の良い日はデッキに出て外の空気にふれ気分転換しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レク当番があり、毎月外出やレクの行事を計画し実行しています。外出時は参加していただけるご家族に声掛し、毎回3組ほどのご家族が参加しされ、楽しい時間を過ごしていただています。またご家族からの依頼があれば外出はいつでも出来ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は事務所で預かっています。ただご本人の希望でお金を持っていたい方にはご家族と相談し1000円～2000円くらいを財布に入れてもってみえる方もみえます。他預かっているお金で館内の自販機を利用される方もみえます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って見え、ご家族目田に連絡を取り合ってみえる方もいらっしゃいます。また利用者様から家族に電話がしたいと依頼があったら、職員がかわって電話することもあります。手紙の依頼は現在はないが対応できます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全てバリアフリーで対応しています。室内はいつも電気がついており、明るいです。手作りの手芸品も多数飾っており家庭的な一面もあります。外のデッキにはプランターに花や野菜が植えてあり、季節感を感じていただいています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が隣席に座ったり、少し離れたところにソファを置いて1人になれるように配置しています。また席は利用者様の状況を見ながら変えることもあり、皆様が穏やかに過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に居室の配置はご本人やご家族様と相談して決めています。ご自宅で使用していた馴染みの物とか写真を持参していただき安らぎの場所になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の動線には歩行の障害にならないように物を置かないようにしています。またトイレやお風呂には分かるように表示しています。		